中・長期計画

2020 年度～2029 年度

学校法人　物療学園

Ⅰ　大阪物療大学の使命

1．建学の精神「之科学為報国修」

大阪物療大学は、2011年（平成23）年10月に理事長 田中博司博士のもと既設の大阪物療専門学校から、社会的な要請や地域的な課題へ対応するため大学化による、教育機能と研究機能の質的な向上を図る必要性があると結論したことにより、開学に至った。

2．使命

診療放射線技師に求められる幅広い視野と豊かな人間性の涵養に加えて、技術学分野に関する基礎的な理論と技能を習得したうえで、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、そしてディプロマポリシーに掲げている地域社会への貢献や豊かな人間性、高い倫理観、対人関係能力を培うこと、また他職種とのチームワークや継続的な自己研鑽能力、研究探求能力のある人材を育成すること。

具体的には、

①人類の文化や社会、自然に関する知識の理解と知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な汎用的技能を養う。

②科学的な知識と技術に基づく適切な判断力と行動力を培い、これらを基盤とした技術力を養う。

③生命尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観を備え、的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。

④チーム医療の一員として、他の医療従事者と協調・協働して責任を果たし、医療安全の確保に貢献できる能力を養う。

⑤医療技術の進歩に柔軟に対応できる基本的資質と、生涯を通して継続的に自己研鑽できる能力を養う。

⑥主体的・創造的に課題への探求に取り組み、解決する力と学問の向上に寄与できる基礎的な研究能力を養う。

Ⅱ　大阪物療大学の 10 年後の姿

○大学を取り巻く外部環境

中長期計画の期間は、社会・経済のグローバル化がより進み、複雑化、不確実性が高まることが予想される。地域社会や産業界からは、大学教育に対する有為な人材育成や学術研究への要求、関心が今まで以上に高まり、大学における教育研究成果や情報公開が厳しく問われている。

国内の 18 歳人口は 1992 年の 205 万人をピークに減少し、今後 110 万人台で推移していたが、令和元年・2 年には出生者数が 100 万人を割り 80 万人強になっている。本学が発展し続けるためには、時代や社会のニーズを踏まえて教育・研究・社会貢献に取り組まなければならない。

○大阪物療大学が抱える課題

第 1 に入学者確保に関する課題として、

①同程度の入学難易度の大学間で、より積極的に選ばれる大学になること。

②職業（マンモ検診など）が必要としている女子学生を増やすこと。

③時代や社会ニーズに応えた学科の充実。

第 2 に在学生の教育に関する課題として、

④入学生の本学への愛着心やロイヤリティをさらに高めること。

⑤履修者の授業満足度を向上させること。

⑥全ての学生を卒業させ、国家試験に全員合格させること。

⑦学士力の質保証・グローバル人材の養成・大学改革などに積極的に対応

第 3 に本学のブランド力に関する課題として、80 数年培ってきた一貫した医療人教育をより明確に推し進める。

第 4 にキャンパス体制に関わる課題として、現在 3 ヶ所にわかれている学舎の連携を密にする。可能なら 2 ヶ所・1 ヶ所に統合できるよう努める。

○ビジョンの設定

こうした状況を踏まえ、本学は前記の使命を将来にわたって社会の要請に応えていくためにも、今後 10 年間に目指す大学像＝ビジョンを次のとおりとする。

<u>・総合ビジョン</u>

建学の精神「之科学為報国修」に基づき、教育・研究・社会貢献において絶え間ない改革を実行し、とりわけ医療人として有為な人材を輩出することにより、各方

面からの絶大なる信頼獲得を維持し続ける大学をめざす。
基本方針は次のとおりとする。

1. 教育ビジョン ―― 社会や医療界が求める質の高い医療人教育を確立する。

建学の精神「之科学為報国修」に基づく人間性・教養コミュニケーション能力を有し、グローバルな視点を持ち、社会の課題を主体的に発見し、解決できる人材を育成する。

2. 研究ビジョン ―― 社会や医療界の発展を支える研究拠点を形成する。

優れた教育を推進するために、自由闊達な研究環境を維持し、創造的研究に取り組み、社会や医療界の発展を支える研究拠点を形成する。

3. 社会貢献ビジョン ―― 知の拠点として存在感を高め、活力ある社会づくりに貢献する。

教育研究の成果を地域社会に積極的に還元し、企業・自治体・住民等を連携し、活力ある社会づくりに貢献する。

Ⅲ　ビジョン実現のための目標と方策

教育・研究・社会貢献ならびにそれらを支える教学環境、入試・広報、組織・財務に関する目標と重要施策を次のとおりとする。

1. 教育ビジョンの実現のために ―― 社会や医療界が求める質の高い医療人教育を確立する。

①卒業時に保証する知識と能力等を明確にし、それに基づきアドミッションポリシー（入学者受入方針）・カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）・ディプロマポリシー（学位授与方針）の３つのポリシーを明確化し、実現させる。
②入学前教育および導入教育を再構築し、大学教育へスムーズに移行させる。
③学生の教育成果を踏まえてカリキュラムを改編し、学生の授業満足度を高める。
④学生の実態、社会のニーズを踏まえて、教育方法を改善し、授業満足度をさらに高める。
⑤教育・学生支援体制を再構築し、学生生活満足度を高める。
⑥就職・キャリア支援体制を強化する。

2. 研究ビジョンの実現のために ―― 社会と医療界の発展を支える研究拠点を形成する。

①研究の活性化を促進する仕組みを導入する。
②研究の推進・支援体制を充実させる。
③高度の研究実績を有する教員を採用する。

3. 社会貢献ビジョンの実現のために ―― 知の拠点としての存在感を高め、活力ある社会づくりに貢献する。

①教育研究成果を積極的に社旗に還元するなど、知の拠点としての存在感を高める。
②地域社会が抱える課題の解決に貢献する。

4. 教学環境

教学環境の向上のためキャンパス整備を行う。今ある学舎のさらなる有効利用を再検討する。

5. 入試・広報

①本学の教育の特色・強みを明確にし、ブランドの確立につなげ対外的に打ち出す。
②建学の精神・教育・研究・社会貢献に即した公共性を高めるためメディアとの連携を強化する。
③高大連携・接続事業を戦略的に展開する。
④優秀な学生を確保するため、志願者数を倍加する。
⑤社会が要望する女子学生の志願者・入学者比率を高める。

6. 組織・財務

①定員規模は現行の学生数を基本とする。
②経営・教学ガバナンスの体制を再構築する。
③経営基盤を強化させる。
④教員の資質向上を図る。
⑤職員の資質向上を図る。

Ⅳ ビジョンの推進体制

中長期計画に定めるビジョンや目標を確実に実現・推進するため行動計画を策定する。

1．ビジョンの具体化と行動計画の策定

ビジョン実現のために 6 つの目標と重要方策を具体化するため、理事会の下に下記の専門委員会を設置する。

（1）学部教育改革
（2）教育・学生支援改革
（3）研究改革
（4）社会環境改革
（5）入試・広報改革
（6）組織・運営基盤改革

2．行動計画の実行と評価

10 年間の行動計画について専門委員会は理事会に対して年度毎に進捗状況報告を行う。

理事会は、進捗状況を評価し、それに基づき事業計画の見直しを適宜行う。教職員への情報共有を徹底し、ビジョンの実現を図る。さらに、毎年の事業計画を法人・大学の組織目標、大学の自己点検評価活動の相互が適切に関連付けられるようにする。これらを通して、教職員が一体となってビジョン実現に向けて主体的に行動していくことを期待するものである。

3．具体的指針

18 歳人口の減少により、学生数の維持が重要課題になるため

（1）入試・広報活動をより若者に受け入れられるように検討する。
（2）在学生の満足度を向上させるための職員組織の改革を進める。
（3）現職員の適材適所およびそれにみあう人員配置を見直す。